



雪の華

老  
び  
遊  
山  
江  
川  
弄  
深  
一  
四  
季  
子  
句  
あり  
花  
盟  
子

官  
氣

冬  
霜  
改  
名

花  
嬌  
砂  
月

中村俊定文庫  
文庫 18  
655  
2







昔もついでにきぬの糸はまをり  
 ねんころもまじりしねあし厚  
 響きやまの音流るる岩間を  
 一梅のまぶるも和合て月おひ  
 なるはちか連ふかあつらまも  
 むのまじりや梅の日のまじり日枝  
 へ糸乃何やまじりし糸乃月  
 まのねあつらまじり糸乃子糸乃  
 茶乃まじり糸乃肥乃梅のまじり  
 素隠 肥牛 宜鳥 魚光 橘叟 素悟  
 物我 如淵 千布

一糸乃糸乃糸乃糸乃糸乃糸乃  
 糸乃糸乃糸乃糸乃糸乃糸乃  
 一日の糸乃糸乃糸乃糸乃糸乃  
 春乃糸乃糸乃糸乃糸乃糸乃  
 客乃糸乃糸乃糸乃糸乃糸乃  
 糸乃糸乃糸乃糸乃糸乃糸乃  
 西来意同り梅乃糸乃糸乃糸乃  
 陽乃糸乃糸乃糸乃糸乃糸乃  
 糸乃糸乃糸乃糸乃糸乃糸乃  
 玉城 西車 洛梅 阿人 花残 子帘 鄭我 如泉 梅戸

雪

中三

上青嶋  
 初山  
 元嶋田  
 田中  
 水守

文母定政十年  
五月五日

即ち帆の後の喜河の喜の風府中 格泉  
 系向の枝の影の山たきの経 郎城  
 皇曆切のよの光の極の 古人 一之  
 古御や日くふはの午時の清 古篤  
 皇曆切のよの光の極の 東女  
 物干のよの光の極の 巴明  
 一のよの光の極の 曳尾  
 皇曆切のよの光の極の 文母  
 山たきの影の山たきの影の 復炉

谷のよの光の極の 酒楽  
 春雨のよの光の極の 千布  
 皇曆切のよの光の極の 卷而  
 皇曆切のよの光の極の 志賀女  
 皇曆切のよの光の極の 梅雅江尻  
 皇曆切のよの光の極の 白悟  
 皇曆切のよの光の極の 素白清水  
 皇曆切のよの光の極の 六耳  
 皇曆切のよの光の極の 乙巢



おもひ月かたさくぬれを極  
 雪の  
 久は毒や羽きくたの神出所  
 文隣  
 川は子柳のこ場乃はさるる  
 琦志  
 神はまの白むる登のまき  
 竹摩  
 極も世ふひく極乃まき  
 湖天  
 比降のまは山りく苗代田  
 葛妻  
 身神極山見えくく櫻人  
 雷序  
 其風や舟の富士漕く田子結浦  
 儀交  
 いはれく定まき井やまきのま  
 下岬  
 是来

ま物くくはも封る日和分  
 丹野  
 民古  
 初もの強もかろれま如布賣  
 文龜  
 五魚たか魚もたかまき  
 相草  
 五周  
 うけろふ乃縹舟くはり如  
 菅谷  
 善藤  
 生の中ま朱の在志のま  
 吐圓  
 雖もは声響く大ふまきま  
 文巢  
 出代や山入れりくはは  
 阿人  
 まかまきま声も響くま  
 相良  
 南梁  
 吟く波の初河り以于沼  
 座来

一日は柳千枝けし草白  
蓮倉や新く乃すも終る  
毎天の宮も浮る夕  
さくら花咲き空給るも  
有るえり鏡照ししゆぬさくら  
梓溜の中ふ香流る福流る  
鼻吸し響の海苔も  
湯あや習り書ある朱乃清  
道徳の心花の如魚よあつる

駱石  
其葉  
去草  
葛路  
文兒  
有途  
訥丈  
可明  
玄兔

馬郡

中西

白井

新地

古人

見附

心かえさるちまはく櫻の  
まきんまきん中み山は  
山吹乃はうる水の流る  
馨鳴る丘の柳や中つ橋  
浮揚る花多し夏流る  
燕さる羽帯きふ古宮の  
まきんまきん波の細流る  
うさるひさるひさる初  
山吹乃はうる井つ流る

九丁  
魯春  
義和  
菊吾  
仙之  
木禿  
芦霍  
桃六  
露井

大坂

廿

平川

横地





~~~~~の~~~~~梅  
掛川 芝月

風中~~~~~  
白須賀 二木

幕~~~~~梅  
影森 貫至

~~~~~夕日持~~~~~風中  
茶嵐

~~~~~  
月笑

~~~~~  
~~~~~

~~~~~の~~~~~日~~~~~  
今切 東峨

水~~~~~梅~~~~~  
濱松 華喬

~~~~~梅~~~~~  
蓼堂

西陣や~~~~~梅乃~~~~~  
桂兔

~~~~~  
卧雪

洛陽の~~~~~  
徐生

~~~~~  
阿聲

~~~~~  
魚明

~~~~~  
不求

~~~~~  
花應

~~~~~  
月主

~~~~~  
磯衛



破る船の心やおぼれ月二川一隠

夏別

壽梁子

花盟子

鬼卵

鼠扇

如竹

阿人

壽梁  
江太即九街川  
寛政三年八月  
八日歿興親院

英征(佐衛家英龍の祖父)

丸(何の身)

忍(居士江家三子代也)

やまの場取けハ智の申  
恙のやまの身切のを好む  
鳩崎〜杉のえ〜夕橋  
信守馬指おき〜嬉〜

夏の部

駿別

葛蓮

巴石

渡道

玉璫

青藍

靈山

壺月

千布

不きは板乃下を身まじむ  
おのころのそそ〜花  
鈴音〜山は柳ち〜  
松葉〜我もあ〜  
水際〜や〜夏の月  
はもた〜小町〜  
出〜後の身〜更衣

ちとくしと改局約とふりやうて  
 書とてぬきしとてしとてふ  
 阿人  
 梧井  
 以篤  
 桂羅  
 九夫  
 丘車  
 路洲

晴くりにとて入てとては五月  
 花子畑  
 冬蘿  
 東翠  
 右幸  
 潜魚  
 千布  
 阿人  
 浴梅

戸を閉ぢる遠まらり鼻月雨 舟車  
 心もさへ思ひし悔乃志の心 沾吏  
 水もつら星夜友とて花を食 歌舌  
 空もさへ空もあ位の衣や何 周支  
 二羽くと連ぬをさおき次 周恪  
 夕まや神あひひしむまは 栗恪  
 陣金より孫滑りしむし 橘叟  
 袖のちぬ乃ちし時房さふら 大耳  
 川流や火さく縁しむし 茶筵

白鼓まやみしむしむし 羅浮  
 心もさへ思ひし悔乃志の心 祇郎  
 時を湖もよとさふ山城もさ 紫英  
 羽もつら星夜友とて花を食 梧井  
 水もつら星夜友とて花を食 玉城  
 空もさへ空もあ位の衣や何 物我  
 二羽くと連ぬをさおき次 梧泉  
 夕まや神あひひしむまは 房城  
 陣金より孫滑りしむし 古篤  
 袖のちぬ乃ちし時房さふら 房城  
 川流や火さく縁しむし 古篤



家く〜川乃〜田植り如  
 十〜末〜川乃〜田  
 着〜夜〜  
 水子草〜茶全の行〜  
 筆〜夜〜白息扇  
 夕〜柳〜  
 をの〜形〜  
 空〜世〜  
 御階の〜  
 阿人  
 洒来  
 十曉  
 乙兒  
 金息  
 素白  
 白悟  
 乙業  
 官松

身く〜人急〜  
 茶〜の〜  
 衣〜  
 布泉〜  
 尺布〜  
 花残〜  
 子帘〜  
 千布〜  
 東巴〜  
 六身  
 茶霍  
 花鏡  
 布泉  
 尺布  
 花残  
 子帘  
 千布  
 東巴

中里  
 女  
 青島  
 栢山  
 藤枝



舟頂乃何の<sup>水守</sup>かも去<sup>梅戸</sup>了次<sup>水守</sup>之如律

舟<sup>真津</sup>身津<sup>東里</sup>遠<sup>東里</sup>一<sup>東里</sup>げ<sup>東里</sup>り<sup>東里</sup>鼻<sup>東里</sup>身<sup>東里</sup>を<sup>東里</sup>

尾<sup>原</sup>之<sup>原</sup>舟<sup>原</sup>を<sup>原</sup>津<sup>原</sup>画<sup>原</sup>路<sup>原</sup>り<sup>原</sup>ぬ<sup>原</sup>ら<sup>原</sup>ま<sup>原</sup>え<sup>原</sup>

似<sup>吉原</sup>備<sup>吉原</sup>と<sup>吉原</sup>ら<sup>吉原</sup>く<sup>吉原</sup>く<sup>吉原</sup>海<sup>吉原</sup>の<sup>吉原</sup>那<sup>吉原</sup>

全 卷別

第<sup>赤坂</sup>州<sup>赤坂</sup>の<sup>赤坂</sup>路<sup>赤坂</sup>く<sup>赤坂</sup>り<sup>赤坂</sup>も<sup>赤坂</sup>る<sup>赤坂</sup>流<sup>赤坂</sup>水<sup>赤坂</sup>も<sup>赤坂</sup>

夕<sup>舞木</sup>ま<sup>舞木</sup>や<sup>舞木</sup>松<sup>舞木</sup>一<sup>舞木</sup>本<sup>舞木</sup>の<sup>舞木</sup>ま<sup>舞木</sup>り<sup>舞木</sup>く<sup>舞木</sup>し<sup>舞木</sup>

雲<sup>本宿</sup>あ<sup>本宿</sup>み<sup>本宿</sup>も<sup>本宿</sup>心<sup>本宿</sup>尽<sup>本宿</sup>く<sup>本宿</sup>る<sup>本宿</sup>も<sup>本宿</sup>下<sup>本宿</sup>り<sup>本宿</sup>も<sup>本宿</sup>ま<sup>本宿</sup>ま<sup>本宿</sup>

口<sup>巴水</sup>の<sup>巴水</sup>通<sup>巴水</sup>ら<sup>巴水</sup>ん<sup>巴水</sup>海<sup>巴水</sup>の<sup>巴水</sup>暁<sup>巴水</sup>一<sup>巴水</sup>鼻<sup>巴水</sup>月<sup>巴水</sup>を<sup>巴水</sup>

梅戸

東里

玄留

斯三

黒花

其雄

東巴

巴水

川<sup>鉢地</sup>持<sup>鉢地</sup>や<sup>鉢地</sup>供<sup>鉢地</sup>も<sup>鉢地</sup>重<sup>鉢地</sup>時<sup>鉢地</sup>ち<sup>鉢地</sup>節<sup>鉢地</sup>凡<sup>鉢地</sup>

春<sup>御油</sup>声<sup>御油</sup>の<sup>御油</sup>か<sup>御油</sup>り<sup>御油</sup>く<sup>御油</sup>て<sup>御油</sup>瞬<sup>御油</sup>乃<sup>御油</sup>一<sup>御油</sup>期<sup>御油</sup>の<sup>御油</sup>

舟<sup>久保</sup>は<sup>久保</sup>ま<sup>久保</sup>や<sup>久保</sup>身<sup>久保</sup>信<sup>久保</sup>の<sup>久保</sup>荒<sup>久保</sup>一<sup>久保</sup>字<sup>久保</sup>の<sup>久保</sup>舟<sup>久保</sup>

舟<sup>素竹</sup>く<sup>素竹</sup>の<sup>素竹</sup>海<sup>素竹</sup>老<sup>素竹</sup>木<sup>素竹</sup>も<sup>素竹</sup>ま<sup>素竹</sup>り<sup>素竹</sup>松<sup>素竹</sup>

都のあま

か<sup>牛久保</sup>つ<sup>牛久保</sup>り<sup>牛久保</sup>ん<sup>牛久保</sup>く<sup>牛久保</sup>や<sup>牛久保</sup>小<sup>牛久保</sup>路<sup>牛久保</sup>く<sup>牛久保</sup>の<sup>牛久保</sup>花<sup>牛久保</sup>阿<sup>牛久保</sup>や<sup>牛久保</sup>め<sup>牛久保</sup>

雲<sup>悟人</sup>の<sup>悟人</sup>く<sup>悟人</sup>く<sup>悟人</sup>は<sup>悟人</sup>な<sup>悟人</sup>昔<sup>悟人</sup>を<sup>悟人</sup>何<sup>悟人</sup>も<sup>悟人</sup>ま<sup>悟人</sup>り<sup>悟人</sup>

花<sup>芝石</sup>も<sup>芝石</sup>似<sup>芝石</sup>ま<sup>芝石</sup>ま<sup>芝石</sup>の<sup>芝石</sup>あ<sup>芝石</sup>ら<sup>芝石</sup>も<sup>芝石</sup>の<sup>芝石</sup>あ<sup>芝石</sup>ら<sup>芝石</sup>も<sup>芝石</sup>の<sup>芝石</sup>あ<sup>芝石</sup>ら<sup>芝石</sup>

ま<sup>御馬</sup>は<sup>御馬</sup>く<sup>御馬</sup>ふ<sup>御馬</sup>ま<sup>御馬</sup>人<sup>御馬</sup>の<sup>御馬</sup>あ<sup>御馬</sup>ら<sup>御馬</sup>く<sup>御馬</sup>り<sup>御馬</sup>ち<sup>御馬</sup>月<sup>御馬</sup>干<sup>御馬</sup>

梅志

禮貴

冬里

素竹

得々

悟人

芝石

木蘭



五十七

五十七

去りてしる帆の雲はくちりて  
原川 魚明  
 醒るはくちりてはくちりて  
花應  
 押さくちりてはくちりて  
月主  
 さよくちりてはくちりて  
袋井 五琴  
 ぬよくちりてはくちりて  
赤尾 南枝  
 山よりくちりてはくちりて  
桺和  
 昔かきくちりてはくちりて  
卜初  
 牡丹散りてはくちりて  
壽叟  
 夏みおの海の色はくちりて  
高野 喜霍

日暮やみよの雲はくちりて  
其柏  
 はくちりてはくちりて  
指原賀 雲ぬ  
 冬翔るやみよの雲はくちりて  
暁雨  
 夕丈人車這くちりて  
投雪  
 はくちりてはくちりて  
其夕  
 船を後のくちりてはくちりて  
戈隣  
 玉加し牡丹一はくちりて  
竹摩  
 雲かきくちりてはくちりて  
五墨  
 さよくちりてはくちりて  
竹籬

五十八

五十八

灯を誘ふは十九院乃菅の好 平川 木禿  
 蕭湘乃管を晴らんおぬむん 圓二  
 空のわや名のこ定祇のさき水 五石  
 着あや管あぬ松の自 横地 芦霍  
 此山けけ管 桃六  
 交る白と早水位と給りもり 藤川  
 復乃自多の流り押ひひり 大坂 菊吾  
 川持やうまう河津り母乃惡 梅巴  
 連る少くくくく納涼う那 仙之

ちのちやきりありの橋乃流 加茂 其川  
 十とるくくくくく保くく 城飼 葛妻  
 初ものくくくくくく 丹野 民古  
 咲あくくくくくく 紅の花 文亀  
 夕まや氏ふる夜をるのくく 桐草 五峰  
 何くくくくくくくく 蓮うり月 五周  
 豆粒や二兄の浦お人の露 菅谷 善藤  
 川くくくくくくくく 吐圓 吐圓  
 坊を中や高橋を片明里 文巢 文巢

葛路 中西  
 文兒 白井  
 儀交 地方  
 雷序  
 斗皎  
 東湖  
 佳來  
 呂竹 池新田  
 南梁 相良 吉人

可代 女  
 洞仙  
 其葉 金谷  
 月哉  
 外子  
 春人  
 可良  
 天古  
 貫至 影末



よのほもくま入くや夏の娘 再兒  
 空歌や夢ふまの道し傳むる 期月  
 瑞瑞や塔を遊ぬけの二日白 宜来  
 一也語や花の露ゆく言乃峰 酒匂 川里

夏もよほむくま入の杜若 公羽

右夏川歌入り西かんとされし碑なり其雄建之  
 三河舞木

秋乃部

遠州

濱松

るあねの糸ながし一瞬のころ 蓼堂  
 丁々やうの鳴るおれくおんかみ 徐生  
 う〜富す〜條而よりあは紅蓮地 桂免  
 秋風や市能志中よ巫女の門 卧雪  
 舞うて人よ是き〜川板珠屋所 魚明  
 水と葉〜ま〜ゆ〜や塔乃結 約我  
 名月や水の巾ゆ〜稲むらゆ 雪川

雪

申並

軍令や地へ教入乃るを  
今切 東城  
 夜芝居の古教仕り  
馬郡 去草  
 洗炮乃る多岐花  
入野 方壺  
宇布美  
 明月やわが坂山の弱名  
中泉 花舟  
 西とすのしづ  
川袋 自口  
 鶯のさな尾  
見附 草牛  
 清きや命  
女 可明  
 早き  
女 梅甫  
 色  
 鳥曉

印し掃の秋乃る  
女 富春  
 溪戸ふり  
 鳥林  
 ち地よき  
 玄兔  
 安し  
 羨和  
 吹く  
 柳後  
 早合  
 阿人  
 山姥  
 立琴  
 伊社  
 柳和  
 天照  
 卜初

中三  
 中三



杉杉のるもあらしや秋の空  
高部 壽叟  
 多のたきのびをえと花の雪  
横須賀 喜霍  
 虚の甲の早もあらしの月  
 雪ぬ  
 夕暮や鳥のむせぬ小野の松  
 朱簾  
 碑よぬまの故郷を花の雪  
 五墨  
 名月やいづれ新しき跡巡り  
 投雪  
 心書や深き水のうみ  
 枕浦  
 さらし白浪えく空やうらな月  
 戈隣  
 意心の鹿新しき書本に啼おぬ  
 竹摩

鳥来乃あやあやあまの縁と上州殿  
地公方 雷序  
 二葉のうねるものや葉の影  
 斗皎  
 秋のやあやあらしのうらな月  
 儀交  
 稲妻のむせぬあやあらしの波  
 茂蓼  
 舟水のわかれぬあやあらしの舟  
丹野 民古  
 名月のうらな月のあやあらしの舟  
 文亀  
 誰やあらしのうらな月のあやあらしの舟  
地公方 周二  
 杉の月流るるあやあらしの舟  
桐草 五山  
 こゝのあやあらしのうらな月のあやあらしの舟  
金谷 月哉

麻好く川ゆきおぬき春の道  
 後の月懐鏡をさすくはあか  
 浪枯くさき川  
 精乃声なきくはあか  
 新日や海をさぬきくはあか  
 人こころなきくはあか  
 治末くおぬきの夢か  
 嗽く水なきくはあか  
 葉の暗くおぬきの夢か

外子  
 春人  
 可良  
 天古  
 芦霍  
 枇六  
 木禿  
 芦毫  
 圓二

地をさすくはあか  
 新日や海をさぬきくはあか  
 人こころなきくはあか  
 治末くおぬきの夢か  
 嗽く水なきくはあか  
 葉の暗くおぬきの夢か

阿人  
 五石  
 其川  
 吐圓  
 文巢  
 文兒  
 葛路  
 可代  
 駱石



全

参列

平とひし阿漕舞木はさうり男其の如  
 舟落し嫁くさのうも早女今を盈之  
 明月やハ声赤坂を造る人乃聲黒花  
 ち〜ん〜果は有るう勢本宿乃心美三  
 菊能故葉〜姫里ハなう〜成り  
 名〜〜路〜秋の名跡やハ麻の声  
 空〜〜路〜いよ〜秋乃音久保素竹  
 三〜〜と糸色〜〜と架〜〜守 鳥瓦

明月や浪をま〜〜に暈牛久保野 蒲城  
 秋深き音〜〜清し水の音 芝石  
 い〜〜梅や那〜〜葉咲 木蘭御馬  
 破産子能果も目切〜〜名西方好  
 名〜〜和言ハ途ゆ〜〜鳥二河 暁斗

全

駿列

花名よ〜〜鳥葉付〜〜時有中下四翁如々菴  
 杖もや先さ〜〜初梶泉  
 名月の初〜〜ま〜〜た〜〜山 郎城

雪

中六七

楠の晴 延秋乃 修之きましく 古  
 朝しや 蘇く書字の 硯も 巴明  
 夕ふ 月影さ 秋枝も 文母  
 ちの 露の 供ふ 子布  
 西の 智人を 梅く 阿人  
 肉く 麻衣 殊の 斗衛  
 午の 夢や 夕ひ 酒未  
 月七又 光城 婦ふ 复如  
 偃や 快ふ 乃 曳尾

濃秋や 多秋 未は いさ 川 東女  
 山多乃 花多 暮り 秋の 桂 花  
 此書 子古 を 糧と して 世 秋の 千 布  
 乃 中 にあ 匠乃 石 秋の 酒 未

秋師の年回を 記す

多澄も 二十 廿 自 或 月 東 籬  
 十二 里 砧 葉 流 白 悟  
 不 一 稿 或 誰 刈 或 素 白  
 杖の 夜乃 志 川 心 六 耳

雪

秋

清水

江尻

無津

名目や梅の夏としりねん 乙巢  
山崎の糸も清き糸や小糸松 官松  
仙境より糸は菊能流う那 菴原 卷而  
さし梅糸の新も梅とて 女志賀

おの清後の瀬戸海をかくる

浪の川や清くも藤子の梅乃言 吉人 唯揚  
河もすくは白き湖しは糸の糸 吉人 周竹  
登も晴まきしは老くもきりね 千布  
志松の糸の川清や秋のこれ 中里 茶雀

新島の糸の清くも梅乃言 布泉  
白と梅くも梅乃言 尺布  
晴くも梅乃言 今泉 英美  
晴くも梅乃言 上三河 花残  
行なも梅乃言 柘山 子帘  
何つぬ糸の糸は梅乃言 古人 白鷺  
秋乃月三十二相も梅乃言 甲中 峨月  
きつぬ糸一別も梅乃言 水守 梅戸  
いづれも梅乃言 酒楽斎

肩をもて腰をせりて秋乃る 原 去留  
 新緑の暁なきよしの坂の峰 請所 吏関  
 暮れゆく道はゆるぎなき花もふし 干布  
 新緑の人へお山の四方環 島田連 以篤  
 ちりちりし既登焼くとも 桂羅  
 ちりちりや小唄の神の控聲 梧井  
 松の氷をこぼすやうな月 玉城  
 帆を綴るよふし帆を忘るおぼろ 馬蓼  
 后乃月船あはれと舟のり 青藍

水井の汗も流さずすまひし  
 割きくはるの敷乃西風ふ  
 ちりちりよみよの女を移す  
 羽をゆきぬき色しりり木の峰  
 新月の光の影もゆきもぬき  
 菊の人の心も流るる花も  
 稲妻の光をなくすはの霞の川  
 秋の色のしるしはしるし  
 白く霞の田毎に白く

雪山 路洲 丘車 芦川 冬蘿 東翠 右幸 潜魚 梅丸

七夕おらりくられ子きし鞠乃喜  
 舟車  
 手おく七一節細を及す  
 乙蝶  
 新詠如い津々く蚌の筒井はく  
 玉玦  
 明月や二十五法乃漸み系  
 巴石  
 名々や笠巻の声すあつこ山  
 渡道  
 阿々きりく思あふくくあのみ  
 梧井  
 松乃自ら好ましく人を遠めり理  
 壺月  
 常しくゆりて着とく角力への時  
 洛梅  
 又々花明く巫山乃喜ちきれ  
 沾吏

琴曲尺のたま世あつー菊合  
 阿人  
 かさりくよまはれむおれ芙蓉のれ  
 千布  
 多れ教も飯名一和く角力か  
 歌古  
 三吏婦と夫はくくきく  
 周吏  
 月あよひいお魂くつおあ明か  
 桑悟  
 新詠のよえくはく一親子中  
 橘叟  
 客乃あふん中あ持りき麻のし急  
 茶来  
 野崎くまお下道能まりり  
 物我  
 人喜の能く月えり存明か  
 夜来



り海や花の中はうららかに  
酒菴原掩耳  
酒菴原楽

全 豆列

名目や庭の山もよきとて  
花盟子  
松のくつらんとて  
鬼卯  
積和斗も  
和斗  
著るるの流石なりや初めし  
阿人

寛和三年六月

冬乃部

駿州

島田連

まのなは乃翁を侍りて  
格井  
白紙のまをけす  
以篤  
冬は月山をりて海を  
桂羅  
袖子味候の初め  
樂輔  
葉乃の初め  
大耳  
臨みよる海土乃  
馬蓼  
冬牡丹君の流し  
玉瑛

書

中三



きわたり佛化〜五不〜  
古人 周丈

水仙の花や神〜も仙〜  
菊二

海嵐〜汝元東海嵐〜  
千布

焼畑も耐志〜夕月〜  
庵原 卷而

結衣の言を隣〜垣根〜  
女 志賀

山川乃末〜月夜乃瀬〜  
江尻 梅雅

雪積〜船〜是〜渚〜  
麓 白悟

山〜川〜二日〜  
清水 素白

雪〜山〜二日〜  
清水 六耳

白山の雪も山〜  
喜如月 官松

雪〜山〜二日〜  
乙葉

雪〜山〜二日〜  
千布

雪〜山〜二日〜  
酒楽

雪〜山〜二日〜  
暮 曙山

雪〜山〜二日〜  
島田 画江

雪〜山〜二日〜  
栢井

雪〜山〜二日〜  
玉城

雪〜山〜二日〜  
原 去留

高き雪の君の眸 田清水 羽雪

雪しるれを 倉沢 有隣

腹汁や友も 中里 酒楽

遠く 中里 茶雀

之を乃夕日 中里 把雪

牛の角 中里 尺布

参り 上島嶋 洛梅

初 上島嶋 花残

さ 朽山 子帘

麦舟や 藤枝 千布

あ 藤枝 阿人

白 島田 栗而

ゆ 島田 栗悟

襟 水守 播叟

百姓の 水守 梅戸

水仙 駿府 酒楽

輝 駿府 梧泉

遠 駿府 郎娥

砂よけも砂よけもあつた世しと  
 古寫  
 砂よけも砂よけもあつた世しと  
 巴明  
 砂よけも砂よけもあつた世しと  
 酒本  
 砂よけも砂よけもあつた世しと  
 千布  
 砂よけも砂よけもあつた世しと  
 東女  
 砂よけも砂よけもあつた世しと  
 曳尾  
 砂よけも砂よけもあつた世しと  
 復炉  
 砂よけも砂よけもあつた世しと  
 文母  
 砂よけも砂よけもあつた世しと  
 酒本

多仙やいつも花の路中  
 玉球  
 多仙やいつも花の路中  
 酒本

全 参別

文〜〜〜  
 赤坂 黒花  
 其の中は唾も〜〜  
 本岩 巴水  
 妻のや神〜〜  
 鉢地 里朝  
 山〜〜  
 舞木 禮貴  
 本〜〜  
 舞木 其雄  
 甲〜〜  
 長沢 思啓

水仙花いしむる〜死〜大根言  
 枯芦乃書と傍〜ち〜のふ  
 不梅や少し〜食の二三人  
 朔を〜行〜つ〜産〜産〜  
 投入や〜乃〜の空〜お〜  
 うり〜し〜差〜る〜ん〜室の梅  
 売小似〜蛇〜味〜や〜蛸の和〜  
 出〜〜や〜測〜入〜ま〜の清〜の〜  
 炸〜〜ま〜や〜ま〜あ〜ら〜ら〜く〜炭

阿人  
 素竹  
 可俵  
 芝石  
 菱歌  
 木蘭  
 子好  
 群鴻  
 楚川

久保

牛久保

御馬

西乃

木原  
十  
四  
年  
癸  
卯  
言

〜の〜物〜烟〜佛の〜ま〜ら〜層  
 言〜声〜や〜ま〜を〜起〜は〜ま〜こ〜り〜あ〜し

吉田 木原  
 二川 南圭

全

遠別

濱松

水仙や〜行〜も〜ま〜を〜浪小柄  
 妻〜身〜や〜多〜掛〜え〜れ〜た〜地〜み〜か〜く〜多  
 雪〜々〜や〜籠〜の〜波〜々〜川〜小〜乃〜海  
 蒼〜汗〜お〜あ〜ら〜お〜む〜ま〜ま〜 長房  
 大海〜〜ゆ〜あ〜ま〜い〜ま〜み〜ら〜り〜ん  
 一寸の鳥も〜夢〜れ〜く〜急〜は〜ま〜梅

蓼堂  
 徐生  
 桂兔  
 卧雪  
 雪川  
 魚明

津多し記あれも却の人なほ  
 水もちま田ぬ光るや冬乃月  
 ちのしりやもてハ投る鴛一羽  
 健の三符と七海よ死守らる川  
 芭蕉忌やいりらと枝の八重を岸  
 落葉集しと水鏡乃光隈おし  
 若海や波をた好もてけし時  
 一もや梅をて古きよの歌  
 船とふ小春の海乃父日る  
 不 求  
 約 我  
 花 喬  
 貫 至  
 月 哉  
 外 子  
 春 人  
 可 良  
 芦 霍

湖東

今切

影炎

金谷

横地

涙し喉声もたすしとと程のま  
 死生命何しと飯もも薩十人  
 山吹の雪もふちしと時多義  
 四つはは月と入しとん友らと  
 人ありと見えとれ津しと細代と  
 涙もしとて圓志のしとそおの夜  
 口ッ橋や多しとぬきおしとつたの  
 ふしきとや雪と映すしと朝の海  
 切しと入る海しと雪乃山  
 枕 六  
 圓 二  
 木 禿  
 芦 毫  
 五 石  
 其 川  
 湖 天  
 雪 ぬ  
 投 雪

平川

加茂

城飼

横須賀







芦花吹雪小春風 原川 花應

冬更雪世し押しつゝ 可月

一ふ山よ月を花や多仙舞 其川 芝月

白霞の吐袖ふふ 水仙 五誓

去る雪をくまは 沈の使 歌白

臙 池新田 友子 呂竹

全 夏別

才稲や任乃く 梅 壽梁子

水仙乃新 花 花盟子

官風六花尾  
伊豆三時後  
醇和三日致

ついで 友 仙里

光 も 芝蘭

け ら 鬼卵

水 の 官鼠

舟 か 阿人

遅来

抱 か 里秀

夕 暮 麦乃娘

お い 芙蓉

駿稻荷嵩

り所のま小解く細道なるりる

諸國混雜

取物や市社乃をく健の言 奥白川 戸ん好  
 取もは紅紙もをく二えくれ  
 五不機もま〜ん富乃雪の声  
 本〜〜とあ〜〜〜〜山  
 一掃の南校〜〜花袖 全 深畊  
 得る心やあ〜〜〜日 全 樂我  
 十代田〜〜乃〜〜 全 晋等

雪

雜

この流くやもろく次々此月  
 月あらしひ口ッ橋をハッ渡るる  
 流馬や流馬なれとの流の声  
 積るを柏のつゝゝゝゝゝ  
全三松 莫端  
 まさかや只花を似く山橋全 六一  
 まるや流馬懸く崖つゝゝ  
武飯能 類布  
 柳より葉花あつちうゝゝゝ  
 自溜くさやけき流馬くゝゝ  
 御何り月何ゝ頃丁の梅見くゝ

山門乃多る花葉揺く彼花全 松花  
 竹の子を五凌尺ぬく真一 一  
 まるや流馬風より記くゝゝゝ  
 まるやの白しちうゝゝゝ  
 山中まきしゝゝゝゝゝ 角全 中阿  
 まるや流馬埃塵くゝゝゝ馬  
 流馬や流馬走るぬ履の跡  
 まるゝゝゝの流馬流馬流馬一 一  
 眼のゆゝゝ家やらぬ花見くゝ全常文 凉花



昔の世も久しき事しあはるる  
 朝も夕も晴かつらぬあの日  
 人馴く春も余るるあの日  
 眼のくつしたまはくは秋の味  
 功あつた日のまが樹を影くま  
 今もあまきと寺の清ふねあり  
 聖女寺の母時多織也 蓮のふ  
 振舞ふまに日ゆき 確か事  
 元結のメも結りや梅の陰  
 素和 花嬌 破明 文東 素鏡 舞鏡

全 全 全 全 全 全 全 全 全 全

かき川りて嘆や依るの登 雨  
 戸印ぬく面くく 野かふ  
 離よりも晴くは父母の姿影か  
 翅はくくもく日も何くくは  
 そまらりしれん鏡を扱乃月  
 活し後志ぬ花ゆく水仙花  
 白鳥くこれかふまきぬ花の枝  
 襖を香の中ゆくは歌使うか  
 父母まはれ如く御月八月二夜

全海保 虎溪  
全 魚道  
全小西 仙菓

小田原 十曉



舟楫を渡りては柳を望む  
其牛  
籠を穿ちては山を望む

中洲眺る

雲の峰を望みては  
あけの空  
山を望む  
浦く小舟つづる  
月影  
舟楫を渡りては  
柳を望む  
籠を穿ちては  
山を望む  
又くは山を望む  
魂を望む

方壺 竹打又右  
寛政八年十月  
蝶夢  
他大澤氏徐有方壺  
其乃江也  
文化以後まであり

舟楫を渡りては  
柳を望む  
籠を穿ちては  
山を望む  
又くは山を望む  
魂を望む  
舟楫を渡りては  
柳を望む  
籠を穿ちては  
山を望む  
又くは山を望む  
魂を望む  
舟楫を渡りては  
柳を望む  
籠を穿ちては  
山を望む  
又くは山を望む  
魂を望む

伊之島





山崎鏡も木下... の... よ...  
 喜... や... 臨...  
 而... 乃... 合... の...  
 兎... 乃... 乃... 乃...  
 掛... や... 乃... 乃...

中平七終

全  
 白雅  
 下終乃雅  
 太乙

雪乃章中... 終



